

JUMP新型コロナウイルス感染症対策情報戦略に関する提言

社会の安心を創出する感染症対策における情報戦略の基本的考え方

国民が、新興感染症と向かい合いつつ安心して生活を送れるようにするためには、正しい情報が速やかに提供される必要がある。情報の流れ(生成 ⇒ 分析 ⇒ 提示)全体が整わないと、正しいデータを速やかに得ることはできないので、

- 1) (正しいことが目に見える形で) 正しいデータを収集する
- 2) 複数のデータソースを統合分析して知識(情報)を得て、得られた知識を検証する
- 3) 得られた情報を、迅速に分かり易く提供する

ことができるようにする必要がある。

新型コロナウイルス感染症対策情報戦略に関する提言

1) 正しいデータを収集するため、医療者の入力負担を極力減らすICT化を進めること

- a) (1次元・2次元) バーコード(GS1・携帯電話)・ICカード(マイナンバーカード・Suica)等による半自動データ取得 ⇒ ワクチン接種・PCR検査(HER-SYS)・医薬品(部外品)備蓄/納入(G-MIS)・医療機器
- b) Bluetooth(COCOA)・GPS・WiFi-AP接続履歴等を用いた接触情報の収集
- c) データベース(DB)連携による複数回入力の削減(ワンスオンリー)
- d) (手入力する)情報収集項目の精選

2) 複数データソースの統合分析と検証が可能になるよう、各種DBの連携を図ること

- a) ワクチン接種歴・PCR実施歴のレセプト(NDB)登録とアウトカム情報(次世代医療基盤法)から治療効果と副反応を得る
- b) HER-SYS・NESID・NDBの突合で、各種サーベイランスの精度を検証する

3) COVID-19による行動変容や安心を醸成できるような、新たな社会インフラを作ること

- a) 渡航履歴情報・PCR実施歴・ワクチン接種歴・投薬歴等を連携・提供し、渡航前情報提供や出入国審査を容易にする
- b) ワクチン接種歴・投薬歴と副反応情報を連携・提供することで、副反応発生時の早急・確実な連絡手段を確保する
- c) ワクチン接種率・医薬品備蓄情報(G-MIS)・ECMO使用状況(ECMOnet)等を一元的に公開し、安心感を創出する

医療情報基本法(仮称)整備を含めた法的整備へ